



アートの殻を突き破る表現者たち アートストリーム 2019

2019年9月6日～8日／大丸心斎橋店

主催：アートストリーム実行委員会

(大阪芸術大学、大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会)



アートで交流、世界へ発信

グランプリ
藤原正和さん



関西を拠点に活動するアーティストに、発表の場と飛躍の機会を提供する展覧会・マーケット「アートストリーム」。2003年にはじまり19回目を迎えた今回は、招待作家と公募選考による計85組の作品が展示されました。その中には韓国やイタリアからの出展もあり、まさに大阪から世界に向けてアートの潮流(ストリーム)を発信するイベントに成長しています。会場には外国人の姿も増え、3日間で最多となるのべ約3,700人の来場者で賑わいました。

作品のジャンルは絵画、彫刻、オブジェ、クラフト、メディアアートなど多種多様。その中から審査委員*の選考により、グランプリ(賞金30万円)が藤原正和さん(京都市在住)に贈られました。受賞作は、黒い小さなカプセルをモーターを使って、あたかも無数のダンゴ虫が白い壁を這い回っているようなようすを表現したキネティックアート(自然的・人工的な動力を使って動く立体作品)。みる人を驚かせ、好奇心を刺激する発想が審査員の評価を集めました。今回で3度目の参加

という藤原さんは、「まずは“何だろう”“わぁ不思議”と感じてもらいたい。それからもっとよくみたいという動機につなげ、動きの正体があるとクスッと笑え、やがてそれ

奨励賞
申善美さん



が癒しにつながることを意図している。アートストリームは、みる人の反応をじかに感じる良い機会」と笑顔で語りました。奨励賞（賞金5万円）は申善美さん（シン・ソンミ／絵画）、間瀬眞理菜さん（日本刺繍）、松本拓海さん（立体絵画）が受賞。仕事の発注や個展開催などを副賞とした「企業・ギャラリー賞（23社・団体）」は、ばーしーさん（絵画／関西・大阪21世紀協会賞）、長谷川美紀さん（同／アーツサポート関西賞、大阪韓国文化院賞、ターレンスジャパン賞）ら16名に、来場者の投票で決めるオーディエンス賞は、嘴さん（クチバシ／情景画）に贈られました。

アートストリームの実行委員長を務める関西・大阪21世紀協会の佐々木洋三専務理事は、主催者挨拶の中で、「韓日関係がかつてないほど冷え込んでいる中、駐大阪大韓民国総領事館・韓国文化院の協力により3名のアーティストを招くことができました。アートには、みる人に感動を与え、創造力を高め、相互理解を深める力がある。アートストリームが両国の友好関係のために少しでもお役に立てれば嬉しい」と語りました。

また、来賓の駐大阪韓国文化院・李昌秀（イ・チャンス）

関西・大阪21世紀協会賞 ばーしーさん



副院長も、「アートそして文化の力が、日本と韓国の友好親善に及ぶことを願う。また、作家と企業や美術関係者が一堂に会し、このイベントを盛り上げていることを見習いたい。多くの国が参加し、国際的なアートマーケットに発展するよう期待している」と祝辞を寄せました。

来場者へのアンケート（606人回答）によると、今回も10代から70代以上まで幅広い世代の来場者があり、「作家とじかに話ができて、作品への思いなども聞けて良かった」「いろいろなジャンルの作品をみるのができて楽しかった」などの感想が多く、「大変良かった（55%）」と「良かった（40%）」をあわせると95%の高評価となりました。

* 審査委員… 絹谷幸二氏（審査委員長／洋画家、文化功労者）、養豊氏（兵庫県立美術館館長）、田崎友紀子氏（株式会社スーパーステーション取締役副社長）、ドミニク・ルトランジェ氏（画家）



会場風景

「OSAKA×MILANO DESIGN LINK 2019」にも参加

アートストリーム会場の大丸心齋橋店は、本館グランドオープン（2019年9月20日）を記念して、同年10月12日から約3週間「OSAKA×MILANO DESIGN LINK 2019」を開催しました。大阪と姉妹都市のミラノで行なわれる世界最大級のデザインイベント「ミラノ・フォーリサローネ」の作品群を心齋橋地区の店舗や寺院などに展示し、ここからアートのうねりを起こそうとする企画です。日本からの参加者7名は、なんと全員がアートストリームで活躍してきたアーティストでした。（富岡雅寛さん、藤原正和さん、木村奈央さん、永濱貴之さん、AKANE KOJIMAさん、池田千穂さん、イコールヨシエさん）

11月2日には、その鑑賞ツアー「心齋橋アートクルーズ」が実施され、クリスタ長堀、日航ホテル大阪、三津寺、難波神社において、過去のアートストリーム出品作が再掲。ク

ルーズ参加者からは、「展示環境が変わり、いつものアートストリームとは異なる印象で楽しめた」「ナビゲーターの解りやすい解説で、作品に対する親しみがさらに増した」と好評でした。また、道行く人や海外からの旅行者も足を止めて写真を撮っていました。OSAKA×MILANO DESIGN LINK 2019に招聘されたことで作品が国内外に発信され、アーティストたちにとって新たな飛躍のきっかけとなることを願っています。



富岡雅寛さん「カオスモス／2018年奨励賞」
自然現象を体感するオブジェに道行く人も足を止めて作品を体感（クリスタ長堀・滝の広場）



AKANE KOJIMAさん「わたし／2016年奨励賞」
制作に1年以上かけた刺繍アート。制作過程で起きた心の動きも作品に投影（三津寺）